

【教育目標】「心身ともに、たのもしの子の育成」

- 【めざす児童像】
- ①互いに学び合う子【知】
 - ②やさしく助け合う子【徳】
 - ③健康で命を大切にする子【体】
 - ④地域を大切にし礼儀正しい子【郷土愛】

【目指す学校像】

「自信に満ちた 笑顔いっぱいの 鳳至小学校」
 ～「わくわく」「どきどき」「感動」を根底に、子どもの心に火をつける！～

- ・意欲的に授業・行事等に取り組む子どもたちに（達成感、満足感）
- ・大きな声であいさつし、自分を表現できる子どもたちに（自信）
- ・自分をしり、より良い自分に挑戦する子どもたちに（目標、自主性）

1 学習指導

評価の目標	具体的な取組	主担当	評価の観点 達成度評価基準		学校自己評価		取組及び課題解決に向けた 改善策	学校関係者評価	
			中間	最終	改善策の適切さ	意見及び改善点			
児童の学習力向上を目指す ・学習意欲を高める ・学びの経験値を高める 基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指す ・個に応じたきめ細かな指導の充実	・教師と児童による学習規律や学習ルールの共有 ・生徒指導の3機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を生かした授業づくり	授業づくり	学習規律と学習ルールが教師と児童の間で共有され、落ち着いて学習に取り組んでいる 「各月のめあてのスタディマナーを守っている」児童の割合 A: 60%以上 B: 50%以上 C: 50%未満	A	A	・現状から問題の見られる項目について重点的に取り組み、継続して呼び掛けていく。 ・児童の学習状況と照らし合わせて取り組みを絞る。 ・児童委員会などを活用し、一人ひとりにスタディマナーの大切さが意識できるようにしていく。	A	・各種の取り組みが結果として、学力調査の数値として表れるので、その変化の要因はどこにあるのか、綿密に分析して改善策を検討するのが大切である。 ・マラソン大会のお手伝いをさせていただいたおり、高学年にもっと走ることができる子どもたちがグループで後方をだらだらといった。学力との関係で、成績の良い学年は取り組むことに無気力になっているのではないかと感じる。運動も学習も生活もほとんどの中で足を引っ張っているのではないかと感じる。結果だけを見ると、先生方の力不足のように見えるが、家庭と友人関係の中で互いに足を引っ張り合っているのではないかと感じる。 ・スタディマナーは基本中の基本。これ一点を集中すればO.K。 ・毎時間の授業の始まりが大切では。 ①チャイムの合図とともに授業開始。②学習準備ができています。 ③時計を意識する→教師の働きかけ。④授業の予習（できたら）上の①～④をふまえて①～⑧をチェックしたらどうか。 ①教室の環境→長休みもカーテンが閉まっていないか。 ②教室の時計は合っているか。③注意の言葉が多くなっていないか。→ほめ言葉を増やす。語りかける。 ④子どもはチャイムを意識しているか。→日直の起立・礼のタイミング。⑤机の上は学習準備ができていますか。⑥着席の仕方、手の位置。⑦「シー」と注意するだけでなく、一貫して注意する。私語を拾って授業を進めない。⑧達成目標を明示すべき。→動機づけ ・問題点は次の学年に確実に引き継ぐ。 ・担任の力量不足で他の先生（特に管理職）が入ると担任への子どもの信頼は低下する。指導で解決するしかないと考える。 ・低・中学年は守られているが高学年の守られている割合が低いのが気になる。	
	・ペア・グループ学習を取り入れた、話し合う場の設定 ・主体的に学習できるよう課題の工夫		課題意識や相手意識を明確にした授業が児童の学力向上につながっている 「話す人の方を見て聴いている」児童の割合 A: 60%以上 B: 50%以上 C: 50%未満	C	C	・根拠をもとに話し合いができるようにする。 ・他学年の授業の様子を参観したり、ビデオを視聴したりするなどして、良い話し合いの姿をイメージできるようにする。 ・予習してきたことと生かした授業を行うようにする。	B	・まず、50%以上。Bを目指す。 ・友達と話し合うと理解できるようになっている割合は高く、話し合うことの大切さは実感されている。	
	・書く活動の充実 根拠や理由を明確にして、自分の考えを書く、推敲する（短作文）	基盤づくり	短作文などを書く活動が児童の文章を書く力の向上につながっている 根拠や理由を明確にして、自分の考えを表現できる児童の割合 A: 70%以上 B: 60%以上 C: 60%未満	C	A	・いろいろなパターンの文章を書く力をつけるため、さらなる題材設定の工夫を行っていく。	A	・短作文の書く活動は、good。一層の努力を！！ ・書くことの目標・内容の質の向上が見られる。	

	<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業の充実 放課後学習の充実 漢字検定 情報モラル教育 防災教育 	体制づくり	土曜授業や放課後学習が全校の取組として計画的に行われ、成果を上げている 市学力調査で目標を達成した割合(6学年×2教科=12を100%として算出) A:60%以上達成 B:50%達成 C:50%未満		C	<ul style="list-style-type: none"> 社会・理科の用語テストや補充学習を効果的に行う。(実施時期の検討、学力調査前) 当該学年の基礎的な力がつくよう朝読書やリテラシーの時間を活用する。(取り組み内容の見直し) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 用語テスト、大賛成。社会・理科ばかりでなく、他教科も。 土曜授業がなくなる分、宿題を多く出すようにしてほしい。
--	--	-------	---	--	---	--	---	--

2 生徒指導

評価の目標	具体的な取組	主担当	評価の観点		学校自己評価		取組及び課題解決に向けた改善策	学校関係者評価	
			達成度評価基準		中間	最終		改善策の適切さ	意見及び改善点
自尊感情・自己肯定感を高める	<ul style="list-style-type: none"> 教師主導から児童の企画運営による諸活動(達成感や満足感を高める) 生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした委員会活動や行事の運営 	特別活動	児童が自分達で決め、協力して活動する場を作り、児童の満足感や達成感につながっている 「学級や学校をよりよくするために自分たちで考えて活動している」と答えた児童の割合 A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満	A	B	<ul style="list-style-type: none"> よりよく、より楽しくという活動を生み出せるように教師が働きかけていく。 児童の活動をしっかりと振り返り価値づけをすることで、自尊感情、自己肯定感を高めていく。 低、中学年は学級を中心に、高学年は学校全体を意識し取り組んでいく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 平日頃の目配り、気配りで子どもの観察をして、より自尊感情や肯定感が高まるようにお願いしたい。 改善策を実行すべし。 「ありがとう」「うれしい」「助かった」と意識して、声かけ→自己肯定感・勇気づけ・教えて「考えさせる」学力向上が自尊心を高めると思う。 	
いじめ、不登校の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ、あきらめない、あとかたづけを通じた集団づくり(3あ運動) 生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした諸活動の推進 いじめアンケートやQ-Uアンケートの実施と結果を生かした迅速な対応(いじめ防止基本方針より) 外部の専門家との連携 	生徒指導	児童がお互いに助け合い、協力して活動する場を作り、児童の友達との温かな関係づくりにつながっている 「安心して学校で生活している」と答えた児童の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:80%未満	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「一人一人が大切にされている」と実感できるように、教師－児童、児童－児童の関わり方を発信、指導していく。 他学年との関わりを指導していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 3あ運動は集団の質を向上させる。地道に続けてほしい。 いじめは絶対に見逃さず、対応してほしい。 Aを目指して少しでも、一人でも。 「悪いことは悪い」正義・公平・公正がいきわたるようにしてほしい。 「いのち」を核として道徳教育を進める。 ボランティア活動への参加。 保護者への周知。(いじめはだめだということ) 感謝の気持ちや友達の良さを見つける活動はとても良いと思う。 感謝される児童はきっとうれしく感じると思う。(今の大人にも必要な活動) 	

3 心の教育・体力向上・健康増進

評価の目標	具体的な取組	主担当	評価の観点		学校自己評価		目標達成及び課題解決に向けた改善策	学校関係者評価	
			達成度評価基準		中間	最終		改善策の適切さ	意見及び改善点
豊かな心を育てる道徳教育を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 時期とねらいを明確にした道徳・学級活動の実践 保護者や地域と連携した道徳の授業(授業の公開・ゲストティーチャーの活用) 	道徳推進	保護者や地域と連携した道徳の授業を行い、児童が自分自身を見つめ、考え、判断する力を育てる ゲストティーチャーを活用した授業を行ったクラスの数 A:2回以上実施したクラスがある B:全クラスで実施 C:実施しなかったクラスがある	C	B	<ul style="list-style-type: none"> GTの活用を年間計画に位置付け、計画的に行われるようにする。 「考え議論する道徳」において授業の流れや発問について考え、児童が主体的になるような授業のさらなる構築をめざす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーの活用は年間の中で効果的に活用するのが大切である。未実施の学級は年度内には必ず。 ゲストティーチャー制度は良いと思う。親等が授業を参観すれば、子どもは少しは緊張するのでは。 GTをなぜ呼ぶのか。具体的な目標を立てないので、計画的にできていないのではないのか。 仮に間違っても頭ごなしに否定することはせず、考えたことをほめてあげてください。誠実に答えようという姿勢は豊かな心につながる。 	
望ましい生活習慣の確立を図り、健康管理を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ごはんの推進 SNS機器の利用についての指導 	健康	早寝・早起き・朝ごはんを中心とした指導を行い、望ましい生活習慣が身についている 就寝時間を守っている児童の割合(低学年9時半、中学年10時、高学年10時半) A:90%以上 B:80%以上 C:80%未満	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 「すっきりモーニング」の取り組みと声かけの継続。 保健だよりで「早寝早起き朝ごはん」の大切さについて保護者へ知らせる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝・早起き・朝ごはん」は健康な人間の基礎。本人の意識が大切だが、家の人の協力も大切。 Bを期待します。 言葉(音声)で親に伝える。 児童も保護者も約束やルールを「守る」「守らせる」ことの大切さを学ばなければいけない。 	

児童の体力向上に努める	年間を通して跳躍力と柔軟性の向上を目指す	美化	年間を通した取組により、児童の跳躍力と柔軟性が向上している 4・5・6年生の平均 立ち幅跳び+8cm(前年度比) 長座体前屈+5cm 達成した集団の数 A:5~6学級 B:3~4学級 C:0~2学級	立ち幅 B 長座 C	立ち幅 A 長座 C	定期的に記録を測定する機会を設ける、児童が記録を意識するようにしていく。	B	柔軟性も日常生活の中で養われる。効果的な運動を！ 子どものうちに体力向上を。 毎月〇日は〇〇の日とかしたらどうか。 生活環境の変化の影響から近年の児童の柔軟性が低下しているのが気になる。
-------------	----------------------	----	---	---------------------	---------------------	--------------------------------------	---	--

4 保護者や地域との連携

評価の目標	具体的な取組	主担当	評価の観点	学校自己評価		取組及び課題解決に向けた改善策	改善策の適切さ	学校関係者評価
			達成度評価基準	中間	最終			意見及び改善点
保護者や地域から信頼される「開かれた学校づくり」を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 参観から参画へのPTA活動 保護者、地域と連携した各種行事の企画及び運営 学校ホームページの作成と更新 学校便りや学級便りの発行 	教頭	保護者が積極的にPTA活動に参加している	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度内にできるだけ学級だよりとHPの更新により、児童の様子を伝える。 来年度は学年懇談会の目的、日程を改めて再考し、参加率を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 参加率が少し向上したのは良かった。さらにもう少し工夫を。 先生のご苦勞を考えると、頭が下がる。「たより」をもっと出した方が良いという話もあったが、それぞれの方法で多ければ良いというものでもないと思う。先生の負担を減らしてゆく方法は、学校・家庭・地域でしっかりと受けとめ協力してゆくことが必要に思う。 改善策の実行を。 まず、Bを目標に。 教師の多忙化の原因に「生徒指導」「保護者への対応」がある。学習評価などの情報提供をもっと進め、情報を共有すべき。共有しない→手をかせない。ここからは「家庭の問題」といえるようになるよ。 保護者と連携を進める大切な場。 学校行事の参加率は非常に高いが、学年懇談会の参加率は低く、引き続き課題となった。 先生だけの努力では、難しい。
教職員全体の働き方に関する意識改革を進める+33:42	<ul style="list-style-type: none"> 定時退庁日の設定 第4水曜日 勤務時間終了時刻の目標設定 教職員の勤務状況の把握と指導・助言 		職員は業務終了時刻を意識して仕事をしている	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 取組の継続と会議の目的を明確にして方法を工夫し、効率化を図る。 特に80時間以上の職員の原因を聞きとり、対策を考える。 	B	